妙福寺遺跡発掘調査地元説明会資料

令和5年（2023年）2月25日（土）／公益財団法人滋賀県文化財保護協会

私たちは文化財をとおして
ゆたかな滋賀づくりに貢献します。

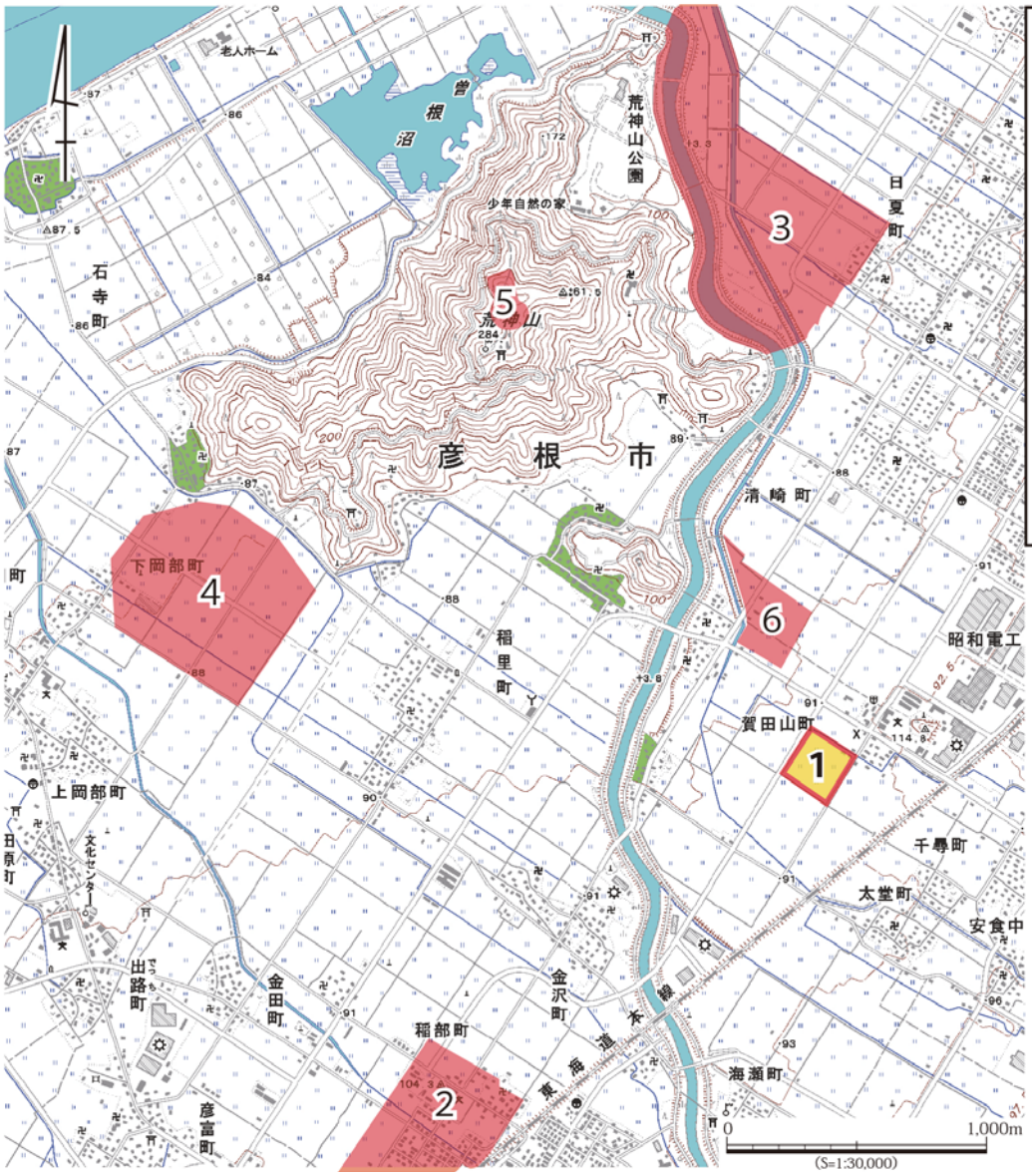
公益財団法人滋賀県文化財保護協会
Shiga Prefectural Association for Cultural Heritages

遺跡と調査の概要

妙福寺遺跡は、彦根市の南部、賀田山町から千尋町にかけての一帯に所在します。荒神山（標高284m）の南東に位置し、宇曽川の右岸に立地します。

この度、埋蔵文化財包蔵地である妙福寺遺跡の範囲内において滋賀県湖東農業農村振興事務所田園振興課が実施する排水路の整備工事が計画されました。これをうけて、令和2～3年度に滋賀県文化スポーツ部文化財保護課が工事計画範囲を対象に試掘調査を実施したところ、小穴や川跡などの遺構が確認され、弥生時代～古墳時代の遺物が出土しました。

このため、当協会では滋賀県からの依頼により、令和4年9月～12月に妙福寺遺跡の発掘調査を実施しました。その結果、弥生時代後期（約1800年前）の川跡が見つかり、川跡から弥生土器や木製品が出土するなど、この地域の歴史を考えるうえで貴重な成果が得られました。



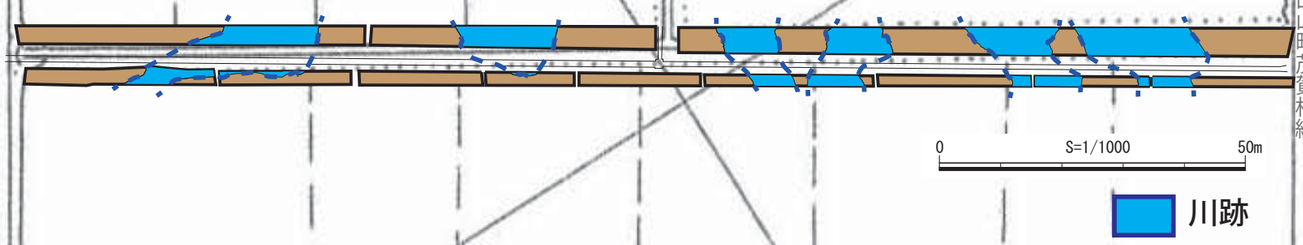
1．妙福寺遺跡
2．稲部遺跡
（縄文時代～中世の集落跡）
3．妙楽寺遺跡
（弥生時代～室町時代の集落跡）
4．屋中寺廃寺遺跡
（縄文時代～平安時代の集落跡・古代寺院）
5．荒神山古墳（国指定史跡）
（古墳時代前期末の前方後円墳）
6．賀田山遺跡
（古代～中世の集落跡）

妙福寺遺跡の位置と周辺の主な遺跡

川跡１　流木の出土状況

川跡２　遺物出土状況

川跡３・川跡４



川跡1　土器の出土状況

発掘作業のようす

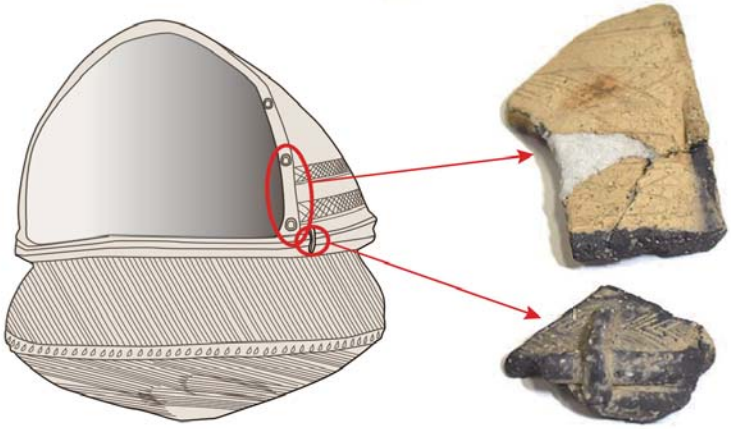
遺　構

今回の発掘調査では、川跡が６条見つかりました。川跡は幅8.5～18.5m、深さ0.7～1.3mを測ります。調査は一部にとどまるため、どちらに向かって流れていたのか明確にはわかりませんが、宇曽川など近くを流れるほかの河川に合流していた可能性や琵琶湖に直接流れ込んでいた可能性が考えられます。川の流れはあまり強くなかったようで、細かな砂や粘土が川底に堆積して徐々に埋まっていったとみられます。川跡1・川跡2を中心として、弥生土器や砥石(といし)、木製品(加工部材)などが出土しました。出土した土器の多くは弥生時代後期のものです。土器は、器表面があまり擦り減っていないので、遠くから流れてきたものではなさそうです。調査地の付近に集落が存在していたのでしょう。

出土遺物

川跡からは、弥生土器や砥石、木製品などが出土しました。弥生土器には、煮炊きに使われた甕(かめ)や貯蔵に用いられた壺(つぼ)、食べ物を盛る高坏(たかつき)などがあります。手焙形(てあぶりがた)土器と呼ばれる珍しい土器も出土しました。手焙形土器の用途は不明ですが、お祭りで使われたとする説もあります。

弥生土器(左より甕・壺・高坏)



手焙形土器

砥石

まとめ

妙福寺遺跡では、これまで本格的な発掘調査が行われたことはなく、その様相についてほとんどわかっていませんでした。今回の発掘調査により、弥生時代後期に遺跡の一角を川が流れていたことが明らかになりました。川跡から弥生土器や木製品など、古くからこの地に人々が暮らしていたことを物語る遺物が出土し、調査地周辺に集落があった可能性が見出せました。

妙福寺遺跡の周辺では、弥生時代後期から古墳時代前期にかけて稲部(いなべ)遺跡や妙楽寺(みょうらくじ)遺跡で集落が営まれていたことが明らかになっています。また、屋中寺廃寺(やちゅうじはいじ)遺跡では、古墳時代に執り行われた水の祭りとの関係が指摘される導水施設の遺構が見つかっており、荒神山の山頂付近には、古墳時代前期に築かれた大型前方後円墳の荒神山古墳もあるなど重要な地域であったことがうかがえます。

まだ発掘調査が終わって間もないため、今回の調査で見つかった遺構や遺物については十分検討できていませんが、今後、整理調査を進めるなかで、こうした周辺の遺跡との関係や地域の中での妙福寺遺跡の位置づけを明らかにしていきたいと考えています。

最後になりましたが、発掘調査期間中、地元の皆様にはさまざまなかたちでお力添えをいただきました。発掘調査事業に対するご理解とご協力に心より感謝申し上げます。